

弓削商船高等専門学校 令和6年度年度計画に対する実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
(1) 入学者の確保 ①-1 入学希望者を対象としたホームページコンテンツ・パンフレット等の充実や、小中学校や教育委員会等への広報活動を行い、本校の特性や魅力を発信する。 また、機構本部が主催する合同説明会や外部団体が主催する合同進学ガイダンス等に参加することにより、組織的、戦略的な広報活動を行い入学者の確保に取り組む。	[学生募集対策委員会(教務係)] ・ホームページ、Facebook、Instagram、Youtubeを活用して学校の様子を公開した。 ・学科紹介動画を作成し、第2回オープンキャンパス(オンライン)で配信した。 ・学校案内パンフレットは掲載したQRコードから、学生の紹介動画にアクセスできるように工夫した。 ・機構本部が主催する国公立高専合同説明会(KOSEN FES) 2024(6/23オンライン、7/14大阪)に参加した。 ・機構本部が主催するKOSEN FAIR2024のオンデマンド開催(8/31～9/9)の常設展示及びリアルタイム開催(9/1)のオンライン個別相談に参加した。 ・一般社団法人日本船主協会が主催する5校合同進学ガイダンス(7/27神戸、8/24横浜)に参加した。 ・入試状況の変化等を分析し、女子生徒に対するPRIに力を入れた。 ・FacebookとInstagramに165件の投稿を行った。 ・Facebookいいね数1212件(昨年度末比104%)、Instagramフォロワー数1909件(昨年度末比121%)、またYoutube登録数484件(昨年度末比114%)であった ・本校第1志願者数は推薦、学力合わせて157名であった。(昨年度比80%)	本校独自に設定した自己点検評価指標に基づいた要改善点(本校第1志願者数増加に関する成果指標)を次期年度計画に反映させる必要がある。
①-2 入学者確保のため、進路説明会、体験航海、出前授業、オープンキャンパス、学校説明会等の機会を活用し、国立高等専門学校及び本校の特性や魅力を発信する。	[学生募集対策委員会(教務係)] ・中学校32校の進学説明会に参加した。 ・保護者向け学校説明会を因島地区(6/5、6/6)、福山地区(6/8)、尾道地区(6/9)、今治地区(10/20)で実施した。 ・7月13日、14日に第1回オープンキャンパス(工業系)を実施し、183組443名が参加した。 ・7月20日、21日に第1回オープンキャンパス(商船系)を実施し、88組220名が参加した。 ・9月1日に第2回オープンキャンパスをオンラインで実施し、40名が参加した。 ・11月2日、3日に第3回オープンキャンパスを実施し、100組277名が参加した。 ・第1回～第3回のオープンキャンパス参加者数は411組で、昨年度とほぼ同数であった。 ・10月5日に実施した公開講座「チャレンジキャンパス2024」で進路相談コーナーを設け、2名が希望した。 ・中学生保護者向けLINEで、随時質問を受け付けている。 ・出前授業を12回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて9回、合計21回実施した。 [広報主事] ・9月29日、ゆめしまフェスタ2024に出展し、広報資料等約400部を配布した。 ・11月17日、新来島感謝祭に出展した。	本校独自に設定した自己点検評価指標に基づいた要改善点(オープンキャンパス参加者数増加に関する成果指標)を次期年度計画に反映させる必要がある。
①-3 小中学校・小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組等を通じ、本校の特性や魅力を発信することにより、入学者の確保に取り組む。	[教務委員会(教務係)] ・出前授業を12回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて9回、合計21回実施した。【再掲】	
②-1 オープンキャンパスにおいて女子生徒を対象としたイベントを行い、女子学生の確保に向けた取組を推進する。	[学生募集対策委員会(教務係)] ・第3回オープンキャンパスにおいて、女子生徒向けのイベントを実施し、本校女子学生と参加者の交流を図った。 ・第1回、第3回オープンキャンパスにおいて、商船学科の女子学生が参加者に対し校内見学の案内を行った。 ・第1回、第3回オープンキャンパスにおいて、女子寮生が参加者に対し女子寮見学の案内を行った。 ・女子のオープンキャンパス参加者数は第1回から第3回まで合わせて述べ95名と前年度(75名)と比べて増加し、女子の本校第1志願者数は40名で、前年度(40名)と同数であった。	
②-2 オープンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けて、英語版ホームページを充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。	[広報委員会(情報・広報係)] ・英語版HPについて、トップバナーの更新及びSNSのリンクを掲載した。 ・日本語版HPに留学生に関する記事を5件投稿した。また、FacebookとInstagramに留学生に関する記事を1件ずつ投稿した。 [広報委員会(情報・広報係)、国際交流推進室(教務係)] ・国際交流推進室Facebookについて、11件の投稿を行い情報発信した。(昨年度投稿数10件) ・国際交流推進室Facebookいいね数33件(昨年度末比138%)、フォロワー数40件(昨年度末比129%)であった。	
③ 本校の入学者選抜方法について、アドミッションポリシーを踏まえ検討する。 また、受験生の利便性を向上させるため、居住地の近くの高専で受験が可能となる「最寄り地等受験」や一度の学力検査で複数の国立高等専門学校の志願が可能となる「複数校志望受験制度」について、機構本部の方針に従って、引き続き実施する。	[入学試験委員会(教務係)] ・入学者選抜(学力による選抜)の調査書採点要領について検討、修正を行った。 ・昨年度に引き続き、「最寄り地等受験」及び「Web出願システム」について、機構本部の方針に従って実施した。 ・昨年度に引き続き、本校と広島商船高専、大島商船高専で「複数校志望受験制度」を実施した。	
③-2 障害がある中学生等が志願した場合に備えて、機構本部の基本的な対応方針及び対応事例等を周知する。	[入学試験委員会(教務係)] ・入学者選抜に関する合理的配慮の提供に関することについて、募集要項に記載している。 ・機構本部の基本的な対応方針及び対応事例等を関係教職員に周知した。	
(2) 教育課程の編成等 ①-1 本校の強み・特色を活かした教育課程の改善・再編について検討する。 商船学科の次世代海洋人材育成など将来構想についての検討を継続して行う。	[教務委員会(教務係)、将来計画検討委員会(企画係)] ・本校の強み・特色を活かした教育課程の改善・再編に向け、学科等改組を検討した。 ・電子機械工学科を創造工学科ものづくりコースに改組、情報工学科に知能情報コースを設置する案を取りまとめ機構本部に申請した。11月20日に理事長ヒアリング及び12月6日に文部科学省ヒアリングを受け、双方から一定の評価を得ることができた。また、学科改組に伴い、本校の強み・特色を活かしたカリキュラムの改正案について検討した。 [教務委員会(教務係)] ・次世代海洋人材育成事業を引き続き実施し、人材育成及び広報活動の観点から将来構想についての検討を継続して行った。	
①-1-2 デジタル人材育成等の社会・産業・地域ニーズに対応するため、産業界との連携を通じ、次世代基盤技術教育のカリキュラム化を推進するとともに、本校の特色・強みをいかしたアントレプレナーシップ教育や社会実装教育等を実施する。	[起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・「社会・産業、地域ニーズ」に対応するため、地域創生演習を起業家工房センターにおいて実施し、今年度延べ約5,100名が起業家工房センターを延べ約15,600時間利用した。	
①-2 専攻科において、大学・大学院と連携協力し、大学・大学院の教育資源を有効に活用しつつ、教育内容の高度化を図ることを目的とした連携教育プログラムを推進する。	[専攻科委員会(教務係)] ・e-Learningに係る単位互換協定に基づき、豊橋技術科学大学が前期に開講した科目1科目を専攻科1年生5名が受講した。また、豊橋技術科学大学及び九州工業大学が後期に開講した科目各1科目を本科5年生1名が受講した(うち、九州工業大学の1科目は途中で履修取り止め)。	
②-1 学生が海外で活動する機会を提供するため、海外留学や海外インターンシップ、学生交流、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。	[国際交流推進室(教務係)] ・協定校であるモンゴル科学技術大学への学生派遣プログラムを9月4日～16日に実施し、4名の学生が参加した。 ・協定校であるハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)への学生派遣プログラムを8月27日～9月12日に実施し、1名の学生が参加した。 ・日本郵船株式会社主催する「NTMA国際交流プログラム」(フィリピン、8月23日～9月2日)に学生3名を派遣した。 ・シンガポールへの派遣を予定している学生の事前研修(10/2)を実施した。また、タイへの派遣を予定している学生の事前研修(11/22)を実施した。 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、シンガポール(11月27日～12月5日、8名)、タイ(12月7日～15日、3名)、フィリピン(3月9日～23日、5名)に学生を派遣した。 ・国際船員労務協会が主催する「アジア・太平洋海事大学(フィリピン)練習船での日比異文化交流プログラム」(フィリピン、3月19日～25日)に学生8名を派遣した。 ・海外への学生派遣者の合計は延べ32名で、昨年度からやや増加した。 [国際交流推進室(企画係)] ・11月12日にモンゴル科学技術大学の教員4名の訪問及び打合せを実施した。 [起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・国際化に対応した起業家マインドを育成するため、以下のアントレプレナーシップ・プログラムコンテストに参加した。 【国内のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専ロボコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。 【DCON2025】に1チームが出場し、2次審査に参加した。 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 【国外のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。	
②-2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人材を育成するため、グローバルエンジニア育成事業を実施する。また、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。	[国際交流推進室(教務係)] ・グローバルエンジニア育成事業の一環として、10月～1月(週2回)にTOEIC対策講座を実施した。 [起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・国際化に対応した起業家マインドを育成するため、以下のアントレプレナーシップ・プログラムコンテストに参加した。 【国内のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。【再掲】 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専ロボコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。【再掲】 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。【再掲】 【DCON2025】に1チームが出場し、2次審査に参加した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 【国外のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。【再掲】	

弓削商船高等専門学校 令和6年度年度計画に対する実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
③-1 学生の意欲向上や本校のイメージの向上に資する「全国高等専門学校ロボットコンテスト」等の全国的な競技会やコンテストに参加する。	[厚生補導委員会(学生支援係)] ・「全国高等専門学校体育大会」は、団体種目1クラブ、延べ5クラブ13種目の参加であった。その他の全国規模の大会、コンテストについては、第25回高校生国際美術展で審選部から1名入賞者があつたほか、陸上部から1名がJOCジュニアオリンピック全国大会に出場し、3位の成績を収めた。また、マイコン部から2チームがプログラミングコンテスト全国大会に出場し、特別賞及び敢闘賞を受賞した。 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。【再掲】 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専プロコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。【再掲】 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・DCON2025に1チームが出場し、2次審査に参加した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。【再掲】	
③-2 学生に対し、ボランティア活動の参加意義や災害時におけるボランティア活動への参加の奨励等に関する周知を行う。また、単位認定などにより学生のボランティア活動への参加を推奨する。	[厚生補導委員会(学生支援係)] ・防災リーダー育成研修会を1月31日に、松原海岸周辺の清掃を2月3日に実施した。 [教務委員会(教務係)] ・電子機械工学科、情報工学科において、ボランティア活動を地域創生演習として22名が単位認定されており、学生が積極的にボランティア活動へ参加した。	
③-3 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする各種海外派遣奨学金制度等の情報収集を行い、学生の積極的な活用を促すとともに、学生の国際会議・海外留学・短期教育プログラム等、グローバルに活躍するエンジニアとして求められる資質・能力を伸長する海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図る。 加えて、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムへの参加を推進する。	[国際交流推進室(教務係)] ・学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を、Teamsやポスター掲示にて、随時提供してあり、学生1名が「トビタテ！留学JAPAN」プログラム」に応募した。 [起業家工局センター運営委員会(企画係)] ・国際化に対応した起業家マインドを育成するため、以下のアントレプレナーシップ・プログラムコンテストに参加した。【国内のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。【再掲】 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専プロコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。【再掲】 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・DCON2025に1チームが出場し、2次審査に参加した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 ・【国外のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表、2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。【再掲】	
③ 多様かつ優れた教員の確保 ① 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることと原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。	[人事委員会(人事係)] ・専門科目担当教員の公募のうち電子機械工学科教授、准教授又は助教3名については、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、博士の学位を有すること(取得見込含む)又は企業・研究所等において該当分野に関する研究者・技術者として常勤での勤務経験が5年以上ある者で、修士以上の学位を有する者を応募資格に掲げた。 ・船舶学科では助教3名を公募し、10月21日付けで博士号取得者を1名採用した。しかし、それ以降は博士の学位を有する者の応募が無かったため、要件を緩和し、応募資格は航海分野においては「3級海技士(航海)、又は担当科目に関する修士以上の学位を有し、流体工学分野及び海洋工学又は海事科学に関する分野においては、「修士以上の学位を有する者が望ましい」とした。 ・情報工学科では教授、准教授又は助教3名を公募したが、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、博士の学位を有する者(取得見込含む)、修士の学位を有する者(取得見込含む)、学士の学位を有し(取得見込含む)かつ情報工学の分野において、高度な専門知識や技術・経験などを有する者のいずれかに該当することを応募資格として公募した。 ・応募資格として、博士の学位を有する者を掲げていない場合でも、将来的な博士取得の意欲があることを応募資格の1つとした。	多様かつ優れた教員の確保に努めなければならない。
② クロスアポイントメント制度について周知する。	[人事委員会(人事係)] ・令和6年5月20日開催の第1回人事委員会にて周知した。	
②-2 民間企業の経験がある教員の活用による教育内容の高度化を推進する。	[教務委員会(教務係)] ・各学科で実務経験のある教員による授業を実施した。 [情報工学科] ・今年度後期から、民間企業において設計を担当していた教員が、情報工学科3年でCADの授業を担当している。	
③ ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性教員が働きやすい環境を整備するため、女性教職員の意見交換の場を設ける。	[人事委員会(人事係)] ・育児短時間勤務を1名が利用した。 ・育児への配慮として1名が早出労働を行った。 ・令和6年9月24日付けで同居支援プログラムについて募集を行った。 ・令和6年度より個人別の変形労働時間制の導入しており、2名が変形労働時間制を実施した。 [ダイバーシティ推進室(総務係)] ・令和7年2月28日に女性教職員の意見交換の場として、校長主催の懇談会を開催した。	
④ 外国人教員の採用を継続する。	[人事委員会(人事係)] ・常勤1名・非常勤講師1名を雇用している。	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、両技術科学大学との教員人事交流制度について周知する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。	[人事委員会(人事係)] ・令和6年4月に技科大との教員交流人事制度について周知した。 ・高専間教員人事交流については令和6年4月に周知した。	
⑥ 教員の能力向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントを実施するとともに、学校の枠を超えた自主的な活動参加を推奨する。	[FD委員会(教務係)] ・教員相互の授業参観を6月～1月の期間で実施した。 [学内グループウェアにて、教員の資質向上を目的とした各種研修会の案内を随時行った。] [人事委員会(人事係)] ・高専新任教員研修会(5月27～28日集合研修)に1名を派遣し、オンライン研修を2名が受講した。 ・高専中堅教員研修会(10月30日～31日集合研修)に1名を派遣した。 ・9月17日にSPOD講師派遣プログラムを利用した業務改善に関する研修「教学IR入門」を開講した。	
⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを国立高等専門学校教員顕彰に推薦する。また、学内においても顕著な功績が認められる教職員を表彰する。	[総務課(総務係)] ・国立高等専門学校教員顕彰の推薦者を選考するため、教員の自己評価・相互評価及び学生による教員評価を10月に実施し、11月に教員を国立高等専門学校教員顕彰に推薦した。 [人事委員会(人事係)] ・令和6年10月30日開催予定の人事委員会にて、今年度の校内教職員表彰に係る実施要項を決定した。人事委員会の審議を経て、3月14日開催の運営委員会にて表彰対象者を決定した。	
④ 教育の質の向上及び改善 ① 高専間における授業科目の履修・単位の互換認定を検討する。また、モデルコアカリキュラムに基づく教育を実施するとともに、地域におけるニーズ等を踏まえた特色ある教育の強化を図る。 ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーが適切に設定され、これらに基づくマネジメントが行われているか検証することにより、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善を行う。	[教務委員会(教務係)] ・機構本部の方針に従って、高専間提供科目として本校から1科目を提供した(他校からの受講申込者なし)。また、後期に他校が提供している科目1科目を1名が受講した。 ・モデルコアカリキュラムに基づき教育を実施した。 ・船舶学科卒業生、専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。 ・在学生に対し学修状況アンケートを実施した。 ・電子機械工学科、情報工学科卒業生、専攻科(生産システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。	
② 教育の質の向上に努めるため、自己点検・評価及び高等専門学校機関別認証評価結果について対応する。また、国立高専教育国際標準(KIS)の受賞について検討する。	[自己点検評価委員会(企画係)] ・令和5年度自己点検・評価報告書を11月に作成し、HPIに公開した。 ・外部委員による運営諮問会議を12月に開催した。 ・第1回自己点検評価委員会において、機関別認証評価結果で改善を要する点として指摘された事項が改善されている項目を確認し、至急対応を行うよう担当組織の責任者に指摘を行った。また、第2回自己点検評価委員会において、同様の項目の進捗状況を確認したところ、一定の改善を確認することができた。 ・第1回自己点検評価委員会において、令和9年度にKISを受審することが了承された。	

弓削商船高等専門学校 令和6年度年度計画に対する実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
③-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL/Project-Based Learning)を継続する。 また、企業や自治体、教育機関等と連携し、本校におけるSTEAM教育の高度化を図る。	[起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・地域連携を推進するための産学官連携組織の設置に向け地域の銀行と検討を行った。また、地元自治体である上島町との連絡協議会において、「上島町新規チャレンジ応援事業」、「離島人材育成事業」、「地域産業創生交付金」などの情報交換を行った。 ・卒業研究において、「地域イベント向け店舗情報更新システムの開発」をテーマに取り組んだ。	
③-2 企業と連携した教育プログラムを試験的に実施する。	[地共研センター(企画係)] ・企業と連携した教育プログラムについて、中国四国管区警察局と連携し、4年生及び2年生を対象に情報セキュリティ教育(12/13)を実施した。また、広島銀行と連携し、5年生及び専攻科生を対象に金融講座(1/9)を実施した。 ・技術振興会と共催し、資格試験対策講座として「フルハーネス型安全帯使用作業特別教育」(11/10)と「高所作業車運転特別教育」(11/22, 23)を地域の社会人も受講対象として開催した。「フルハーネス型安全帯使用特別教育」には4名、「高所作業車運転特別教育」には1名の社会人が受講した。 [起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・機材の利用説明用コンテンツとして、DXツール利用の教育プログラムを1コース作成した。 https://moodle2024.center.yuge.ac.jp/course/index.php?categoryid=34	
④ 高等専門学校教育の高度化に向けて、技術科学大学との連携・協議に参加し、教員の研修、技術科学大学との間の連携教育、人事交流などの分野で有機的な連携を検討する。	[教務委員会、専攻科委員会(教務係)] ・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学と各高専とのe-Learning高等教育連携(eHELP)全体会議(8/19)に参加した。 [就職指導委員会(学生支援係)] ・キャリア教育フォーラムを11月30日に実施した。 [人事委員会(人事係)] ・令和6年4月に技科大との教員交流人事制度について周知した。【再掲】	
(5) 学生支援・生活支援等 ① 学生相談体制の充実のため、カウンセラー及びソーシャルワーカー等の専門職の有機的な配置を検討するとともに、機構本部が実施する、いじめ防止や障害を有する学生への支援等学生指導に関する研修に参加する。	[学生相談室(学生支援係)] ・学生指導支援体制の充実を図るため、スクールソーシャルワーカーは週1日、非常勤看護師は週5日の雇用を継続している。カウンセラーは週4日の雇用を前期は継続した。後期も非常勤看護師は引き続き週5日の雇用を継続した。カウンセラーについては後期に退職し、一時的に週4日の雇用ができていなかったが、現在は後任を採用したことで、引き続き週4日の雇用を継続できた。 ・全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修に3名参加した。	
② 高等教育の修学支援新制度の周知を徹底するとともに、各種奨学金制度に係る情報提供をすることで学生支援を充実させる。	[厚生補導委員会(学生支援係)] ・各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、掲示や郵送による学生や保護者への案内に加えて、随時必要な情報をホームページに掲載した。	
③ 入学時から卒業時までの計画的なキャリア教育を検討し、卒業生、同窓会や企業等と連携を図るとともに、企業情報、就職・進学情報などの提供体制・相談方法を含めたキャリア支援の充実を図る。また、次年度以降のキャリア支援体制を充実させるため、卒業時にキャリア支援も含めた満足度調査を実施する。	[就職指導委員会(学生支援係)] ・「商船高専生のための仕事研究セミナー」を5/18に実施し、商船学科の1年生から5年生が参加した。セミナーでは企業と学生との情報交換もあった。また、電子・情報工学科3・4年生を対象に「キャリア教育フォーラム」を11月30日に実施した。 ・「キャリア教育」の授業において、本校OB.OGによる講演を実施し、企業や就職に関する情報を収集した。 ・令和6年度商船学科卒業生、海上輸送システム工学専攻科修了生を対象にキャリア支援も含めた満足度アンケートを実施した。 [教務委員会(教務係)] ・特別活動(HR)にキャリア教育の内容を盛り込み、シラバスに記載した。 ・商船学科卒業生、専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。【再掲】 ・電子機械工学科、情報工学科卒業生、専攻科(生産システム工学専攻)修了生に対し、満足度等のアンケート調査を実施した。【再掲】	
1. 2 社会連携に関する事項 ① 教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を、学校要覧・シーズ集やホームページ、プレスリリースなどにより発信する。	[地共研センター(企画係)] ・学校要覧及び本校ホームページに共同研究・受託研究等の受入状況や全教員の研究・技術シーズを掲載した。 ・産学連携フォーラムのリーフレットに地域共同研究推進センターホームページのQRコードを掲載した。 ・学術論文や学会発表等の教員の研究成果を発信するresearchmapを2回更新させた。 ・共同研究を2件締結した。	
② 国立高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や四国地区地域イノベーションセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化など社会還元に努める。	[地共研センター(企画係)] ・12月4日に産学連携フォーラムを開催した。 ・第4ブロックが企画するマッチングイベントへ参加し、研究成果の情報発信を行った。 ・共同研究を2件締結した。【再掲】	
③-1 情報発信機能を強化するため、報道機関等との関係構築に取り組む。	[広報委員会(総務係)] ・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式、10月の専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式などについて、地元新聞社と連携を図り、記事等が報道された。3月の電子機械工学科・情報工学科卒業式・専攻科(生産システム工学専攻)修了式についても、地元新聞社と連携を図り、情報発信を行った。 [広報委員会(情報・広報係)] ・報道機関にプレスリリースを行い、イベント等の周知を行った。機構本部報告済のマスコミ関係掲載情報数は99件であった。 ・小学生対象の海事啓蒙イベントを実施した。(8月1日・2日「ジョブキッズえひめ2024」、参加小学生計8名、南海放送との連携) ・横浜市内の小中学生を対象とした弓削丸船内見学を実施した。(1月25日・26日、参加者<保護者等含む>計349名、2025KDDI災害対策訓練に併せて実施)【再掲】	
③-2 ホームページや報道機関への情報提供等を通じて、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報を社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。	[広報委員会(総務係)] ・4月の入学式、9月の商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式、10月の専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式などについて、地元新聞社と連携を図り、記事等が報道された。3月の電子機械工学科・情報工学科卒業式・専攻科(生産システム工学専攻)修了式についても、地元新聞社と連携を図り、情報発信を行った。【再掲】 [広報委員会(情報・広報係)] ・ホームページに掲載しているバナーについて、イベントの実際の写真や公式ロゴなどを使用することにより、直感的に分かりやすくなるよう改善した。(プロコン、ロボコン、一日船長のイベント及び教職員採用情報のバナー) ・学校HPの役職者一覧、学級担任、学生数を今年度の内容に変更した。また、電子機械工学科のページや練習船弓削丸のページについて更新を行った。 ・6月に練習船大島丸が本校に寄港した際、その様子を本校の練習船弓削丸とともに撮影し、YouTubeに投稿した。 ・機構本部へ報道内容等の報告を行った。 ・報道機関にプレスリリースを行い、イベント等の周知を行った。機構本部報告済のマスコミ関係掲載情報数は99件であった。【再掲】 ・小学生対象の海事啓蒙イベントを実施した。(8月1日・2日「ジョブキッズえひめ2024」、参加者計8名、南海放送との連携)【再掲】 ・横浜市内の小中学生を対象とした弓削丸船内見学を実施した。(1月25日・26日、参加者<保護者等含む>計349名、2025KDDI災害対策訓練に併せて実施)【再掲】 ・FacebookとInstagramに167件の投稿を行った。 ・Facebookいいね数1212件(昨年度末比104%)、Instagramフォロワー数1909件(昨年度末比121%)、またYouTube登録数464件(昨年度末比114%)であった。【再掲】	
④ 地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組み等を通じ、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成支援を推進する。 また、地域の社会人を対象としたリスキル、リカレントに関する講座等を実施する。	[教務委員会(教務係)、起業家工房センター運営委員会(企画係)] ・出前授業を12回、弓削丸体験航海・総合体験型イベント等を合わせて9回、合計21回実施した。【再掲】 [地共研センター(企画係)] ・技術振興会と共催し、資格試験対策講座として「フルハーネス型安全帯使用作業特別教育」(11/10)と「高所作業車運転特別教育」(11/22, 23)を地域の社会人も受講対象として開催した。「フルハーネス型安全帯使用特別教育」には4名、「高所作業車運転特別教育」には1名の社会人が受講した。【再掲】	
1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 特になし ①-2 特になし ①-3 特になし ①-4 特になし ①-5 特になし ①-6 特になし ①-7 特になし ② 特になし		

弓削商船高等専門学校 令和6年度年度計画に対する実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名:弓削船舶高等専門学校)	実績報告	課題
③-1 学生が海外で活動する機会を提供するため、海外留学や海外インターンシップ、学生交流、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。【再掲】	【国際交流推進室(教務係)】 ・協定校であるモンゴル科学技術大学の学生派遣プログラムを9月4日～16日に実施し、4名の学生が参加した。【再掲】 ・協定校であるハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)への学生派遣プログラムを8月27日～9月12日に実施し、1名の学生が参加した。【再掲】 ・日本郵船株式会社が主催する「NTMA国際交流プログラム」(フィリピン、8月23日～9月2日)に学生3名を派遣した。【再掲】 ・シンガポールへの派遣を予定している学生の事前研修(10/2)を実施した。また、タイへの派遣を予定している学生の事前研修(11/22)を11月に実施した。【再掲】 ・高専生の海外活動支援事業の一環として、シンガポール(11月27日～12月5日、8名)、タイ(12月7日～15日、3名)、フィリピン(3月9日～23日、5名)に学生を派遣した。【再掲】 ・国際船舶労働協会が主催する「アジア・太平洋専科大学(フィリピン)練習船での日比異文化交流プログラム」(フィリピン、3月19日～25日)に学生8名を派遣した。【再掲】 ・海外への学生派遣者の合計は延べ32名で、昨年度からやや増加した。【再掲】 【国際交流推進室(企画係)】 ・11月12日にモンゴル科学技術大学の教員4名の訪問及び打合せを実施した。 【起業家工房センター運営委員会(企画係)】 国際化に対応した起業家マインドを育成するため、以下のアントレプレナーシップ・プログラムコンテストに参加した。 【国内のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。【再掲】 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専プロコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。【再掲】 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・DCON2025に1チームが出場し、2次審査に参加した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 【国外のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表、2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。【再掲】	
③-2 学生の実践的な英語力、国際コミュニケーション力の向上や、海外活動を積極的に経験し、グローバル環境下で専門知識・スキルを活用し、協働して課題解決に取り組むことができる人材を育成するため、グローバルエンジニア育成事業を実施する。また、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラム等への参加を推進する。【再掲】	【国際交流推進室(教務係)】 ・グローバルエンジニア育成事業の一環として、10月～1月(週2回)にTOEIC対策講座を実施した。【再掲】 【起業家工房センター運営委員会(企画係)】 国際化に対応した起業家マインドを育成するため、以下のアントレプレナーシップ・プログラムコンテストに参加した。 【国内のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。【再掲】 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専プロコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。【再掲】 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・DCON2025に1チームが出場し、2次審査に参加した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 【国外のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表、2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。【再掲】	
③-3 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする各種海外派遣奨学金制度等の情報収集を行い、学生の積極的な活用を促すとともに、学生の国際会議、海外留学、短期教育プログラム等、グローバルに活躍しうるエンジニアとして求められる資質・能力を伸長する海外活動等に学生が参加する機会の拡充を図る。 加えて、グローバル・アントレプレナーシップ・プログラムへの参加を推進する。【再掲】	【国際交流推進室(教務係)】 ・学生に対して、「トビタテ！留学JAPAN」プログラムをはじめとする外部の各種奨学金制度等の情報を、Teamsやポスター掲示にて、随時提供しており、学生1名が「トビタテ！留学JAPAN」プログラム」に応募した。【再掲】 【起業家工房センター運営委員会(企画係)】 国際化に対応した起業家マインドを育成するため、以下のアントレプレナーシップ・プログラムコンテストに参加した。 【国内のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・8月9日に開催されたLEADING EDGE四国に2チーム参加し、いずれも最終選考に選ばれた。【再掲】 ・9月29日に開催されたロボコン四国地区大会に2チームが参加し、いずれも特別賞を受賞した。【再掲】 ・10月19日、20日に開催された高専プロコンに3チームが参加し、うち1チームが特別賞を受賞した。【再掲】 ・11月2日に開催されたデザコンに1チーム出場し、最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・DCON2025に1チームが出場し、2次審査に参加した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ四国に2チームが出場し、うち1チームが最優秀賞を受賞した。【再掲】 ・キャンパスベンチャーグランプリ全国大会に1チームが出場し、審査委員会特別賞を受賞した。【再掲】 【国外のアントレプレナーシップ・プログラムコンテスト】 ・LEADING EDGE四国に出場した2チームの代表、2名がシンガポールで行われた最終選考に参加した。【再掲】	
④ オンキャンパス国際化に資する外国人留学生の確保に向けて、英語版ホームページを充実し、高等専門学校教育並びに本校の特性や魅力について情報発信する。【再掲】	【広報委員会(情報・広報係)】 ・英語版HPについて、トップバナーの更新及びSNSのリンクを掲載した。 ・日本語版HPに留学生に関する記事を5件投稿した。また、FacebookとInstagramに留学生に関する記事を1件ずつ投稿した。 【広報委員会(情報・広報係)、国際交流推進室(教務係)】 ・国際交流推進室Facebookについて、11件の投稿を行い情報発信した。【昨年度投稿数10件】【再掲】 ・国際交流推進室Facebookいいね数33件(昨年度比138%)、フォロワー数40件(昨年度比129%)であった。【再掲】	
⑤ 教員や学生の国際交流の際には、海外旅行保険に加入させる等の安全面への配慮を行う。 また、外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組む。	【学生課(教務係)】 ・海外インターンシップに参加する学生は、海外旅行保険に加入する同意書を出させ、保険に加入させた。 ・毎月初めに留学生の在籍確認を行った。	
2. 1 一般管理費等の効率化 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与を含む人件費相当額及び各年度目標に措置しなければならない経費を除き、運営費交付金を充たして行う業務については、中期目標の期間中、毎事業年度につき一般管理費及びその他の業務経費について、1%の業務の効率化を図る。	【総務課(財務係)】 ・一般管理費(人件費を除く)については3%、その他については1%以上の業務の効率化を図った。	
2. 2 給与水準の適正化 特になし		
2. 3 契約の適正化 業務運営の効率性及び国民の信頼性の確保の観点から、随意契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとする。 さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を着実に実施することとし、入札及び契約の適正な実施について監査を受ける。	【総務課(財務係、契約係)】 ・運営契約の適正化を推進し、契約は原則として一般競争入札等によることとした。 ・引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づく取組を実施した。	
2. 4 情報通信技術を活用した業務の効率化 学生等に対するサービスの提供や教職員の負担軽減及び業務効率化のため、デジタル・トランスフォーメーションを活用し、教育における業務の効率化及び教職員の業務効率化等を検討する。	【情報処理教育センター】 ・試験問題管理のため、サイボウズグループ電子決裁の活用を検討し、情報工学科で試行した。また、非常勤講師の利用が必要となるため、ユーザ数の追加について検討した結果、追加が必要ないことを確認した。	
3. 予算(人件費の見積もりを含む)・収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと、本校における教育上の自主性や強み・特色などの機能強化を後押しするため、学生活動、外部資金獲得状況等及び学校運営状況に応じた予算配分方針をあらかじめ定め、各部署に周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努める。 また、独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、引き続き、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。	【総務課(財務係)】 ・運営委員会において、予算配分方針をあらかじめ定め、各部署に周知した。また、運営委員会の審議を経て配分しており、透明性・公平性を確保した予算配分を行った。 ・収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理した。	
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また、卒業生が就職した企業、同窓会等との交流を図り、寄附金の獲得につながる取組を推進する。 さらに、本校のホームページにおける寄附案内ページの改修や寄附者にとって利便性の高い決済手段の導入等により、寄附金の募集方法の改善を検討する。	【学校共センター(企画係)】 ・学友奨励及び本校ホームページに共同研究・受託研究等の受入状況や全教員の研究・技術シーズを掲載した。【再掲】 ・学術論文や学会発表等の教員の研究成果を発信するresearchmapを2回更新させた。【再掲】 ・12月3日に産学連携フォーラムを開催した。【再掲】 ・第4プロダクトが企画するマツダインイベントへ参加し、研究成果の情報発信を行った。【再掲】 ・科研費レビューを実施した。申請率は76.9%で70%以上を維持できた。 ・同窓会から寄附金を受け入れた。 ・寄附金の成果をホームページに掲載した。 ・クラウドファンディングの実施に向け規則(案)を作成した。 ・技術振興会の企業会員数が1件増加した。 ・共同研究を2件締結した。【再掲】	
3. 3 予算 特になし		

弓削商船高等専門学校 令和6年度年度計画に対する実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
3. 4 収支計画 特になし		
3. 5 資金計画 特になし		
4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 特になし		
4. 2 想定される理由 特になし		
5. 不要財産の処分に関する計画 特になし		
6. 剰余金の使途 特になし		
7. 1 施設及び設備に関する計画 ①「国立高専機構施設整備5か年計画2021」(令和3年3月決定)及び「国立高等専門学校機構インフラ長寿命化計画(個別施設計画・行動計画)2021」(令和3年3月決定)に基づき、主要施設(校舎)における老朽施設の改善を図りながら、施設機能の高度化を図る。 また、施設の新構造部材の耐震化について引き続き計画的に対策を推進する。	【施設整備等検討委員会(施設係)】 ・ライフライン再生(中水設備)整備は、令和6年9月5日に契約し、工事が完了した。 ・令和7年度概算要求に向けて、校舎改修(情報工学科棟)及び屋内運動場改修(第2体育館)に関する資料を機構本部に提出した。 ・施設の新構造部材の耐震化については、ライフライン再生(中水設備)整備における配管等の耐震化工事を実施した。	
② 教職員・学生に安全管理のための各種講習会に参加するとともに、「実験実習安全必修」を周知する。	【人事委員会(人事係)】 ・「実験実習安全必修」をHPIに掲載済である。 ・令和6年10月24日～25日開催の中国・四国地区国立大学法人等労働安全衛生協議会に2名参加した。 ・令和6年10月22日～23日開催の中国・四国地区国立大学法人等労務研修に1名参加した。	
③ 中学生や保護者、在校生等にとって魅力ある、本校の特色にふさわしいキャンパス環境の形成に資する取組を計画的に検討する。	【施設整備等検討委員会(施設係)】 ・中水を使所洗浄水や実験用冷却水へ効率的に活用するため、中水設備の修繕や更新に係る工事を実施した。	
7. 2 人事に関する計画 (1)方針 教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修に参加し資質の向上を図るため、以下の取組等を実施する。 ① 課外活動、寮務等の見直しとして、外部人材やアウトソーシング等の活用を検討する。	【厚生補導委員会(学生支援係)】 ・6クラブで計8名に外部コーチ委嘱した。 【寮務委員会(寮務係)】 ・日直及び男子寮宿直業務(1名)を継続雇用し、週あたり4～5回の宿直業務を割り当てた。これにより1/3の負担軽減が実現できた。また女子寮においても寮母を割り当て、当直教員の負担を軽減した。 ・宿日直計画を半年ごと作成した。これにより、中長期的な業務計画を立てることができ、負担の平滑化、交替が容易になるなどのメリットが確認できた。	【寮務委員会(寮務係)】 ・非常勤職員・寮母の活用により、当直教員への負担は軽減されているが、2ヶ月に3回程度の宿日直があり負担は大きい。非常勤職員の追加雇用が望ましいが適任者を探すことが難しい。
② 特になし		
③ 若手教員確保のため、教員人員枠の活用について検討する。	【人事委員会(人事係)】 ・令和6年10月30日に開催した第5回人事委員会において教員人員枠の活用について検討し、令和7年度の採用計画を決定した。	
④-1 機構本部からの通知に従い、専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を掲げることと原則とし、多様かつ優れた教員を確保する。【再掲】	【人事委員会(人事係)】 ・現在行っている専門科目担当教員の公募のうち電子機械工学科教授、准教授又は助教3名については、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、博士の学位を有すること(取得見込み含む)又は企業・研究所等において該当分野に関する研究者・技術者として常勤での勤務経験が5年以上ある者で、修士以上の学位を有する者を応募資格に掲げた。【再掲】 ・船舶学科では助教3名を公募し、10月21日付けで博士号取得者を1名採用した。しかし、それ以降は博士の学位を有する者の応募が無かったため、要件を緩和し、応募資格は航海学分野においては「3級海技士(航海)、又は担当科目に関する修士以上の学位を有する者が望ましい」、流体力学分野及び海洋工学又は海軍科学に関する分野においては「修士以上の学位を有する者が望ましい」とした。【再掲】 ・情報工学科では教授、准教授又は助教3名を公募したが、博士の学位を有する者の応募が無いため、要件を緩和し、博士の学位を有する者(取得見込み含む)、修士の学位を有する者(取得見込み含む)、学士の学位を有し(取得見込み含む)且つ情報工学の分野において、高度な専門知識や技術・経験などを有する者のいずれかに該当することを応募資格として公募した。【再掲】 ・応募資格として、博士の学位を有する者を掲げていない場合でも、将来的な博士取得の意欲があることを応募資格の1つとした。【再掲】	多様かつ優れた教員の確保に努めなければならない。【再掲】
④-2 クロスアポイントメント制度について周知する。【再掲】	【人事委員会(人事係)】 ・令和6年5月20日開催の第1回人事委員会にて周知した。【再掲】	
④-3 ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同僚支援プログラム等の取組を実施する。 また、女性教員が働きやすい環境を整備するため、女性教職員の意見交換の場を設ける。【再掲】	【人事委員会(人事係)】 ・育児短時間勤務を1名が利用した。【再掲】 ・育児への配慮として1名が早出労働を行った。【再掲】 ・令和6年9月24日付けで同僚支援プログラムについて募集を行った。【再掲】 ・令和6年度より個人別の変形労働時間制の導入しており、2名が変形労働時間制を実施した。【再掲】 【ダイバーシティ推進室(総務係)】 ・令和7年2月28日に女性教職員の意見交換の場として、校長主催の懇談会を開催した。【再掲】	
④-4 外国人教員の採用を継続する。【再掲】	【人事委員会(人事係)】 ・常勤1名・非常勤講師1名を雇用している。【再掲】	
④-5 研修会等を通じて、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。	【ダイバーシティ推進室(総務係)】 ・10月3日に1年生及び教職員を対象に女性の心身の健康に関する講演会を実施した。 ・11月28日に2年生を対象に男女共同参画講演会を開催した。 ・教職員に対し、男女共同参画やダイバーシティに関する研修会等に関する情報を周知した。 ・令和7年2月25日に第9回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会を開催した。	
⑤ 幹部人材育成を視野に入れ、個人の事情にも配慮しつつ、教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上に取り組む。	【人事委員会(人事係)】 ・令和6年4月に技科大との教員交流人事制度について周知した。【再掲】 ・高専間教員人事交流については令和6年6月に周知した。【再掲】 ・令和6年10月時点で愛媛大学に職員を1名を派遣し、1名を受け入れた。 【FD委員会(教務係)】 ・教員相互の授業参観を6月～1月の期間で実施した。【再掲】 ・学内グループウェアにて、教員の資質向上を目的とした各種研修会の案内を随時行った。【再掲】	
(2)人員に関する指標 常勤職員について、その職務能力を向上させつつ業務の効率化を図り、適切な人員配置に取り組む。	【人事係】 ・期首・期末それぞれに各課長等による面談を実施した。 【高専機構主催】 ・令和6年度初任職員研修会(令和6年5月13日～15日)に1名を派遣した。 ・令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修(第1回～3回※オンライン)に計5名参加した。 【四国地区国立高専】 ・四国地区国立高等専門学校技術職員研修・代表者会議(令和6年9月4日～5日)に2名を派遣した。 【人事院主催】 ・四国地区メンター養成研修(令和6年5月29日※オンライン)に3名参加した。 ・給与業務初任者等研修会(諸手当・給与支給関係)(令和6年7月17日～18日※オンライン)に1名参加した。 ・第12回四国地区マネジメント研修(令和6年7月25日)に1名を派遣した。 ・第53回四国地区中堅係員研修(令和6年8月6日～7日)に1名を派遣した。 ・女性職員のためのキャリア支援研修(令和6年9月11日～12日)に1名を派遣した。 ・給与業務初任者等研修会(給付決定関係)(令和6年9月18日～19日※オンライン)に1名参加した。 ・第2回四国地区メンター養成研修(令和6年10月17日※オンライン)に2名参加した。 【中国大学法人】 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(令和6年8月21日～8月23日)に1名を派遣した。 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(令和6年8月29日～30日※オンライン)に1名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等学務担当職員研修会(令和6年10月22日～23日)に1名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等財務会計事務研修(初級編)(令和6年10月23日～25日)に1名参加した。 ・中国・四国地区国立大学法人等技術職員代表者会議(令和7年3月17日～18日)に1名派遣した。 ・9月17日にSPOD講師派遣プログラムを利用した業務改善に関する研修「教学IR入門」を開講した。【再掲】 【その他】 ・入札談合等関与行為防止法等研修会(四国地区)(令和6年6月18日、令和7年3月10日※オンライン)に2名参加した。	

弓削商船高等専門学校 令和6年度年度計画に対する実績報告

令和6年度 年度計画 (高専名: 弓削商船高等専門学校)	実績報告	課題
7. 3 情報セキュリティについて 情報システムの適切な整備及び管理並びに情報セキュリティの確保を目的として、以下の事項を進める。 ① 情報戦略推進本部が提唱する情報システムについて検討する。	[情報処理教育センター] ・令和6年9月10日(火)、情報戦略推進本部連絡会に8名が参加し、次期情報システムについて説明を受けた。 ・令和7年1月28日・29日に開催されたIT人材育成研修会に教員1名が参加した。これを踏まえ、本校における情報システムについて対応を検討した結果、ネットワーク構成の見直し及び備置の実施を検討した。	
② デジタル・トランスフォーメーションに持続的に取り組むため、機構本部が実施する研修に情報担当者が参加する。	[情報処理教育センター] ・第3四半期総務省情報システム統一研修においてデジタルガバメントに関する講義を職員1名が受講した。	
③ 情報セキュリティ監査で発見した課題について対応していく。	[情報処理教育センター] ・情報セキュリティ監査において、助言・アドバイスが6項目あった。そのうち5項目については対応が完了した。残り1項目について対応策を検討した。 ・情報セキュリティ監査において、指摘事項が4項目あった。そのうち1項目については対応が完了した。残り3項目のうち、2項目について対応策を検討した。また、1項目については次回契約更新時に対応する予定である。 ・対応状況及び今後の対応スケジュールについて、高専機構本部情報企画課に連絡した。 ・情報セキュリティ利用者規程の見直しを行い、サイバーセキュリティ利用者規程として情報処理教育センター運営委員会にて承認された。また、ソフトウェア管理規則について改正案を作成した。残りの見直しが必要な以下規則等について改正案を作成した。 ・弓削商船高等専門学校情報処理教育センター規則 ・弓削商船高等専門学校情報処理教育センター利用規則 ・弓削商船高等専門学校情報セキュリティポリシー ・弓削商船高等専門学校ソフトウェア管理規則 ・弓削商船高等専門学校情報セキュリティ利用者規程 ・センター利用の手引き ・情報セキュリティインシデント対応手順 ・ウェブサーバ設定確認実施書 ・臨時利用者に対する注意事項	
④ 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るため、機構本部が実施する情報セキュリティ教育及びインシデント対応訓練等に参加する。また、管理職を対象とした情報セキュリティトップセミナーなどに参加する。	[情報処理教育センター] ・機構本部が実施する教職員向け情報セキュリティ研修(e-Learning)を実施し、99名(99名中)が受講した。 ・令和6年11月26日、令和6年度新任教職員を対象に情報セキュリティインシデント発生時における報告経路確認訓練を実施した。 ・令和6年12月9日～11日、全教職員を対象に情報セキュリティインシデント対応訓練(標的型攻撃メール対応訓練)を実施した。 ・四国サイバーセキュリティネットワーク主催のSEC道後イベントにおいて、教職員6名が講演を視聴した。 ・令和6年8月7日豪雨の令和6年度第1回情報セキュリティトップセミナーにおいて、対象の管理職教職員全員が受講し	
⑤ 特になし		
⑥ 情報セキュリティインシデントについて、機構本部から情報共有されるインシデント内容及びインシデント対応を周知する。また、初期対応徹底のために「すぐやる3箇条」の周知を継続して行い、インシデントの予防及び被害拡大を防ぐための啓発を実施する。	[情報処理教育センター] ・令和6年度情報セキュリティに係る注意喚起・情報共有を16件行った。 ・情報セキュリティ研修(e-Learning)において、機構本部より提供された動画(インシデント内容及びインシデント対応、「すぐやる3箇条」を含む)を教職員が視聴した。 ・長期休暇(ゴールデンウィーク、夏季休暇、年末年始)における情報セキュリティ管理についての注意喚起の際に「すぐやる3箇条」を周知した。また、新任教職員に対してネットワーク説明会の際、「すぐやる3箇条」を周知した。	
7. 4 内部統制の充実・強化 ①-1 校長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を実現するため、定期的に運営委員会を開催する。	[運営委員会(総務係)] ・運営委員会を毎月開催し、学校運営及び教育活動に関して意思決定した。	
①-2 校長・事務部長会議その他の主要な会議について運営委員会で課題や方針の共有化を図る。	[総務課(総務係)] ・令和6年度第1・2・3回高専機構校長・事務部長会議の内容について、校長が運営委員会にて報告を行い、法人としての課題や方針の共有化を図った。	
①-3 機構本部に対し、各種会議等を通じ、必要に応じ、本校の状況、意見等を発信する。	[総務課(総務係)] ・運営委員会を毎月開催し、学校運営及び教育活動に関する学内の意見を収集した。また、定例会を毎週(うち月1回定例会(拡大))を開催し、学内の意見を収集し、必要に応じて校長が機構本部に本校の状況、意見等を発信した。	
②-1 法人全体の共通課題に対する機構のマネジメント機能を強化するため、理事長との面談等に対応する。	[総務課(総務係)] ・6月に理事長ヒアリングに係る資料を提出し、7月4日に校長が理事長ヒアリング(対面)に出席した。	
②-2 機構本部が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストの活用や、教職員を対象とした階層別研修等に参加することにより教職員のコンプライアンスの向上を行う。	[リスク管理室(総務係)] ・1～2月に教職員を対象としたコンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。 ・高専新任教員研修会(5月27～28日集合研修)に1名を派遣し、オンライン研修を2名が受講した。 ・高専中堅教員研修会(10月30日～31日集合研修)に1名を派遣した。 ・新任課長研修(7/22・23)に2名派遣した。 ・令和6年度校長・事務部長研修会(9月13日)に2名派遣した。 ・第38回四国地区管理監督者研修(11月21日～22日)に1名派遣した。	
②-3 事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。	[総務課(総務係)] ・事案に応じ、機構本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行った。	
③ 内部監査及び相互監査で発見した課題について、速やかに対応を行う。	[総務課(財務係)] ・松江高専が監査校となり12月18日に高専間会計相互監査を実施した。指摘を受けた要改善事項1件について、12月24日に改善措置を講じた。	
④ 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「公的研究費等不正防止計画」に基づく取組を実施する。	[総務課(財務係)] ・9月から10月(9月1日～10月11日)に教職員に対して公的研究費等の取扱いに関する説明会を実施した。(受講率100%) ・非常勤も含む全教職員に誓約書の提出を求め、全員から提出があった。	
⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定める。また、その際には、本校及び各学科の特性に応じた具体的な成果指標を設定する。	[中期計画推進室(企画係)] ・高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の年度計画を定めた。また、各項目の内容に応じて、具体的な成果指標を設定した。	